

1

(1)	7 2 2 2	(2)	3 7 2 9	(3)	2 0 0 9 6	(4)	2 2 0
(5)	5 . 8	(6)	2 2 8	(7)	3 8 4 0	(8)	$\frac{49}{89}$
(9)	3 3 3 (mL)	(10)	$\textcircled{7}$ 8 (時間)	$\textcircled{4}$ 4 6 (分)		(11)	3 9 (個)
(12)	1 4 (枚)	(13)	9 (種類)	(10)完答)			

2

(1)	四	(2)	3 3 6 画	(3)	5 5 7 画
-----	---	-----	---------	-----	---------

3

(1)	3 6 cm	(2)	7 cm	(3)	1 cm
-----	--------	-----	------	-----	------

4

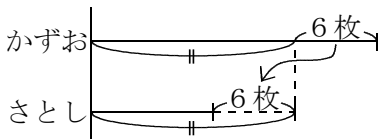
(1)	3 9 0 0 0 円	(2)	2 2 0 0 0 円	(3)	6 0 0 0 円
-----	-------------	-----	-------------	-----	-----------

5

(1)	5 通り	(2)	8 通り	(3)	1 5 通り
-----	------	-----	------	-----	--------

(配点) 各4点×25

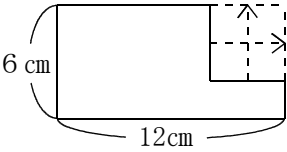
1

- (6) $1024 - \boxed{} + 417 = 1213$
 $\boxed{} = 1024 + 417 - 1213 = \underline{228}$
- (9) $3\text{ L} + 3\text{ dL} - \boxed{}\text{ mL} = 2\text{ L } 967\text{ mL}$
 $\boxed{}\text{ mL} = 3\text{ L} + 300\text{ mL} - 2\text{ L } 967\text{ mL} = \underline{333}\text{ mL}$
- (10) 午後10時27分から午前0時までは、
 $12\text{時}0\text{分} - 10\text{時}27\text{分} = 1\text{時間}33\text{分}$
 $1\text{時間}33\text{分} + 7\text{時間}13\text{分} = \underline{8\text{時間}46\text{分}}$
- (11) $2 \times 3 + 4 < A < 6 \times 7 + 8$
 $10 < A < 50$
Aにあてはまる整数は11から49まで。(11以上49以下)
よって、 $49 - 11 + 1 = \underline{39}$ (個)
- (12) はじめの2人のカードの枚数の差は、
 $6 \times 2 = 12$ (枚)
 $26 - 12 = \underline{14}$ (枚)
- 
- (13) 九九表にある数で、一の位に1が使われているのは1, 21, 81の3種類。
同様に、十の位に1が使われているのは10, 12, 14, 15, 16, 18の6種類。
 $3 + 6 = \underline{9}$ (種類)

2

- (1) 漢字は5個(九月十四日)で1セット。
 $99 \div 5 = 19$ (セット)あまり4(個) → 四
- (2) 画数は、九が2画、月が4画、十が2画、四が5画、日が4画。
 $2 + 4 + 2 + 5 + 4 = 17$ (画)で1セット。
 $17 \times 19 + 2 + 4 + 2 + 5 = \underline{336}$ (画)
- (3) 漢数字は5個1セットの中に3個ある。
 $99 \div 3 = 33$ (セット) → 33セットの4番目まで。
 $17 \times 32 + 2 + 4 + 2 + 5 = \underline{557}$ (画)

3

- (1) 右の図のように分かりやすい形にして考える。
 $(6 + 12) \times 2 = \underline{36}$ (cm)
- 
- (2) 重なっている部分に注目する。
もし重なりがなければまわりの長さの合計は、
 $36 \times 2 = 72$ (cm) → $72 - 52 = 20$ (cm)短くなった
これがあみ目部分の長方形のまわりの長さに等しい。
 $20 \div 2 = 10$ (cm)…たて+横
 $10 - 3 = \underline{7}$ (cm)…横
- (3) (2)と同様に重なっている部分に注目する。
もし重なりがなければまわりの長さの合計は、
 $36 \times 2 = 72$ (cm) → $72 - 68 = 4$ (cm)短くなった
これがあみ目部分の正方形のまわりの長さに等しい。
 $4 \div 4 = \underline{1}$ (cm)…あみ目部分の正方形の1辺

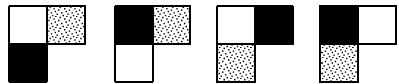
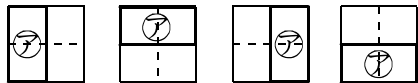
4

表でまとめる。

大	中	小	合計
2	1	1	17000円…㉞
1	2	3	17500円…㉟
3	1		21500円…㊱
4	3	3	39000円…(1)
2	2	2	22000円…(2)

- (1) 大人4人と中学生3人と小学生3人の合計は、㉟+㊱より、
 $17500 + 21500 = \underline{39000}$ (円)
- (2) 大人2人と中学生2人と小学生2人の合計は(1)から㉞をひいて、
 $39000 - 17000 = \underline{22000}$ (円)
- (3) (2)を2でわると、大人1人と中学生1人と小学生1人の合計は、
 $22000 \div 2 = 11000$ (円)
㉞からこれをひいたものが大人1人分。
 $17000 - 11000 = \underline{6000}$ (円)

5

- (1) どのタイルを何枚使うかで分けて数えていく。
・㉞を1枚と㉟を1枚使うとき
㉞をどの場所で、どの向きで使うかによって右の4通りのもようができる。
・㉟を3枚使うとき
右の1通りだけ。
よって全部で、 $4 + 1 = \underline{5}$ (通り)
- 
- (2) ㉞を使う場所は右の4通りが考えられる。
それぞれの場所で、上下または左右を逆にしたものと考えられ、残る場所には㉟を2枚使うので、できるもようは1つの㉞の場所につき2通りずつある。
 $2 \times 4 = \underline{8}$ (通り)
- 
- (3) ㉞を4枚使ってできるもようは1通り。
㉞を2枚使ってできるもようを考える。
黒(または白)がとなりどうしになるのは4通り。
黒と白がそれぞれとなりどうしにならないのは2通り。
よって、できるもようは全部で、
 $8 + 1 + 4 + 2 = \underline{15}$ (通り)
- 

配点：各4点×25

100 完答